

第2節 情報の発信等

従来から、刊行物の発行により研究成果の発信を行ってきたが、近年は、個人においてもパソコンやスマートフォン等の情報通信機器の普及が進み、より迅速な情報提供が求められ、かつ対象者の幅も広がっていることから、ホームページやSNSによる速やかな情報発信も不可欠となっている。

1 刊行物

(1) 研究報告

未発表の原著論文または学位論文を掲載し、第74号（平成28年）から第88号（令和7年）まで15巻発行した。掲載した課題数は61課題で、うち6課題（巻）は学位論文である。

(2) 研究成果集

試験研究成果のうち、普及に移しうるもの、技術的な価値の認められるもの、今後の研究に有用なものを掲載し、年1回、第34号（平成28（2016）年）から第43号（令和7（2025）年）まで10巻を発行した。掲載した課題数は、217課題である。

大課題を「生産現場で活用される技術等（普及情報）」、「研究の場で活用される新手法等（研究情報）」に区分して掲載している。

(3) 新技術シリーズ

試験研究成果のうち、新品種の栽培技術や革新的な新技術に関し体系化された成果について、生産現場への迅速な普及に活用することを目的として発行している。

平成28（2016）年から令和6（2024）年までに5巻発行し、ホームページ掲載のみで情報提供している。

(4) マニュアル

平成31（2019）年に果樹の根圏制御栽培法導入マニュアル（基礎編、樹種編）、令和4（2022）年有機農業・野菜の栃木県内栽培マニュアル、令和7（2025）年水稲有機栽培実践マニュアルを発行した。

(5) ニュース

「栃木県農業試験場ニュース」として、毎月発行し、令和2（2020）年10月号は通巻400号記念を発行した。

令和6（2024）年4月の組織改変後は、「栃木県農業総合研究センターニュース」に名称を改め、第1号を同年5月に発行。年4回発行し、県ホームページに掲載している。構成は以下のとおりである。

- 1) 研究成果：有用性が高く、新しい技術として完成された成果
- 2) 成果速報：研究途中ではあるが、新しい技術として紹介しておきたい成果等
- 3) 試験紹介：現在取り組んでいる試験の紹介、進捗状況等
- 4) 研究 Now：センターで活用している先端研究技術等の紹介等
- 5) トピックス：研究セミナーの開催、会議の開催、受賞、イベント、マスコミ報道など。

令和7（2025）年には、創設130周年を記念し、10年間の研究成果をとりまとめた130周年記念特別号を発行した。

2 ホームページ

県HPには、センターの業務内容を始め、研究成果や育成品種・特許などの成果情報、刊行物データを掲載している。令和6（2024）年4月の組織改編後は、環境技術指導部の業務である肥料・飼料・農薬登録等の案内や病害虫発生予察情報を追加するなど、より幅広い情報提供を行っている。

URL：<http://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/>

3 SNS

令和3（2021）年10月にInstagramとFacebookを開発し、研究内容や作業風景などを写真入りで消費者にも馴染みやすい内容で発信している。併せて、イベントやニュース等刊行物の発行の周知も行っている。Instagramのフォロワー数は750名。（令和8（2026）年1月現在）

4 研究セミナー

作物、野菜、いちご、果樹、花き、及びカーボンニュートラル（土壌環境）6部門においてセミナーを実施した。県内農業関係者に対する研究成果の普及および生産現場の声を試験研究に活かすことを目的とし、各部門とも年1または2回開催している。農政部各課室および出先機関職員、農業団体職員、生産者が一同に介し、活発な意見交換を行う場ともなっている。